

地方独立行政法人那覇市立病院

平成25事業年度の業務実績に関する評価結果

平成26年8月

地方独立行政法人那覇市立病院評価委員会

＜年度評価の方法＞

本評価委員会において、地方独立行政法人那覇市立病院の平成25事業年度に係る業務実績に関する評価を行った。

(評価の基本方針)

- (1) 評価は、中期目標・中期計画の達成状況等を踏まえ、法人の業務運営等について多面的な観点から総合的に評価を行い、評価を通じて法人の継続的な質的向上に資するものとする。
- (2) 評価を通じて、法人の中期目標・中期計画の達成に向けた取組状況を市民に分かりやすく示すものとする。

評価は、項目別評価と全体評価を行い、項目別評価では、法人による自己評価をもとに、業務実績に関する法人からのヒヤリング等を通じて、法人による自己評価の妥当性や年度計画に照らし合わせた達成状況を確認した。また全体評価では項目別評価結果等を踏まえつつ、中期計画等の達成状況について総合的な評価を行った。

なお、平成25事業年度の評価にあたっては、昨年度に指摘・要望等を行った項目について、改善状況等を確認した。

＜地方独立行政法人那覇市立病院平成25事業年度の業務実績に関する評価結果＞

第1 全体評価

1 評価結果

平成25事業年度の業務実績に関する評価については、「市民に提供するサービスその他の業務の質に関する事項」及び「業務運営の改善及び効率化に関する事項」の2つの大項目評価について、「A評価」（中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。）と判断した。また財務内容については、DPC/PDPSの機能評価係数の向上や、病棟薬剤業務実施加算等新たな施設基準の取得等により増収となり、4億4千6百万円の利益を確保している。

2 全体評価に当たって考慮した事項

- (1) 「市民に提供するサービスその他の業務の質に関する事項」の大項目においては、地域医療支援病院の基準である紹介率、逆紹介率ともに目標値を達成し、昨年より実績が向上しており、地域の医療機関との連携が十分になされていること、結核集団感染の拡大防止のため、市保健所が実施した接触者検診の際、採血検査の協力等、積極的に市保健所を支援したことや、診療内容を重視するバージョンアップした病院機能評価の更新認定により、医療機能の一層の充実・向上に

つながっていることなどを評価した。

- (2) 「業務運営の改善及び効率化に関する事項」の大項目においては、後発医薬品の採用について、目標値を達成し、全国の自治体病院の平均使用率を大きく上回っていること、後発品係数の取得により、DPC/PDPS の機能評価係数がアップし、全国ランキングが 676 位から 282 位へ上昇したことや、理学療法士や薬剤師の増員により、リハビリや病棟薬剤業務を強化し、増収となったことなどを評価した。

第2 大項目評価

1 市民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

(1) 評価結果

「A 評価」（中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。）

(2) 判断理由

小項目評価結果の集計結果（＜第2表小項目評価の集計結果＞参照）で「A 評価」（中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。）となる。下記の【大項目評価に当たり考慮した事項】で示しているように、地域医療支援病院の基準である紹介率、逆紹介率ともに目標値を達成し、昨年より実績が向上しており、地域の医療機関との連携が十分になされていること。

市の保健・福祉行政との連携としては各種健診の実績が増加していることや、結核集団感染の拡大防止のため、市保健所が実施した接触者検診の際、採血検査の協力等、積極的に市保健所を支援したことを評価した。

また診療内容を重視するバージョンアップした病院機能評価の更新認定により、医療機能の一層の充実・向上につながっていること、特に入院準備センターの運営が診療業務の効率化や安全確保等に高い評価を受けていることを評価、さらに評価対象の44項目すべてが評価Ⅲ以上であったため、「A 評価」とした。

<第1表 大項目の評価方法>

大項目評価は、小項目評価の結果、特記事項の内容等を考慮し、大項目ごとに中期目標・中期計画の達成に向けた進捗状況について、次の5段階により評価する。(地方独立行政法人那覇市立病院の年度評価実施要領3(3))

S: 中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
(評価委員会が特に認める場合)

A: 中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。
(すべての小項目がⅢ～Ⅴ)

B: 中期目標・中期計画の達成に向けておおむね計画どおり進んでいる。
(小項目についてⅢ～Ⅴの割合が9割以上)

C: 中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている。
(小項目についてⅢ～Ⅴの割合が9割未満)

D: 中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある。
(評価委員会が特に認める場合)

【大項目評価に当たり考慮した事項】

① 小項目評価がⅣ(計画を上回って実施している)の項目は、次の3件であった。

(注:()は小項目の番号を、[]は評価のウェイトを表す。以下同じ。)

ア 地域の医療機関との連携を強化し、地域医療支援病院の維持を図り、紹介及び逆紹介を積極的に促進する。

(11) [2]

紹介率、逆紹介率ともに目標値を達成し、昨年より実績が向上しており、地域の医療機関との連携が十分になされている。

イ 各種健康診断事業の実施及び那覇市保健所と連携し、感染症対策などの施策との連携を図る。

(13) [1]

各種健診の実績が増加している。さらに結核集団感染の拡大防止のため、市保健所が実施した接触者検診の際、採血検査の協力等、積極的に市保健所を支援した。

ウ 病院機能評価の更新を受審し、医療機能の一層の充実・向上を目指す。

(27) [2]

診療内容を重視するバージョンアップした病院機能評価の更新認定により、医療機能の一層の充実・向上につながっている。特に入院準備センターの運営が診療業務の効率化や安全確保等に高い評価を受けた。

<第2表 小項目評価の集計結果>

ウエイトを考慮した44項目のうち44項目全てが小項目評価のⅢ以上に該当していることから、小項目評価の集計では、A評価（中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる）となる。

分野	評価対象 項目数	I（計画を 大幅に下 回っている）	II（計画を 十分に実 施できて ない）	III（計画を 順調に実 施してい る）	IV（計画を 上回って 実施して いる）	V（計画を 大幅に上 回って実 施してい る）
診療機能 の充実	27（8）			24（6）	3（2）	
患者サー ビスの向 上	9			9		
合計	36			33	3	
ウエイト 考慮後の 合計	44			39	5	

注：（ ）は、ウエイト付けした項目数である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

ア 常時小児科医を配置した365日24時間救急体制を維持できるよう今後とも努力してもらいたい。（1）

イ 県内の他の病院で実施できない未熟児網膜硝子体の手術を受け入れていることは評価できる。

また内視鏡的粘膜炎下層剥離術等、身体的負担の少ない治療を実施していることについても評価できる。今後はさらに実績を増やしてほしい。（4）

ウ がん診療連携パスの実績が減少している。各連携施設との連携を強化し、連携パスのより一層の利用促進に努められたい。（6）

エ 地域の医療機関との連携が十分になされている。今後とも連携促進に努めてほしい。（11）

オ 地域連携パスのIT化に未対応の医療機関があり、実績が減少している。今後の利用促進に努めてほしい。（12）

カ 各種健診の実績が増加していることと、結核集団感染の拡大防止のため、市保健所が実施した接触者検診の際、採血検査の協力等、積極的に市保健所を支援し

- たことは高く評価できる。(13)
- キ 診療報酬の感染防止対策加算取得は平成24年度の実績で、現状維持であるため評価Ⅲが妥当である。(22)
- ク 診療内容を重視するバージョンアップした病院機能評価の更新認定により、医療機能の一層の充実・向上につながっている。特に入院準備センターが診療業務の効率化や安全確保等に高い評価を受けたことは評価できる。(27)
- ケ 手術期間短縮の評価は、その指標になる待機患者数をもちいるなど、工夫をされたい。また手術件数の増加が待機患者の減少につながると考えられるので、手術件数の増減について記載してほしい。(29)
- コ ボランティア委員会において、積極的に意見交換会を行なっていることを確認した。(35)
- サ 看護師の待遇研修の回数を増やし、全職員が研修に参加できるようにしてもらいたい。(36)

2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

(1) 評価結果

「A評価」(中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。)

(2) 判断理由

小項目評価結果の集計結果(＜第2表小項目評価の集計結果＞参照)では、「A評価」(中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。)となっている。下記の【大項目評価に当たり考慮した事項】で示しているように後発医薬品の採用について、目標値を達成し、全国の自治体病院の平均使用率を大きく上回っていることや、後発品係数の取得により、DPC/PDPSの機能評価係数がアップし、全国ランキングが676位から282位へ上昇したこと。また理学療法士や薬剤師の増員により、リハビリや病棟薬剤業務を強化し、増収となったこと。さらに評価対象14項目すべてが評価Ⅲ以上であったため、「A評価」とした。

【大項目評価に当たり考慮した事項】

- ① 小項目評価がⅣ(計画を上回って実施している)の項目は、1件であったが特に次の3件を評価した。

ア 適正な後発医薬品の採用促進により患者の負担軽減と法人の費用節減に努める。(40)[1]

後発医薬品の採用については、目標値を達成し、全国の自治体病院の平均使

用率を大きく上回っている。特に抗がん剤等、高額な医薬品の切り替えにより経費節減に寄与している。

イ DPC/PDPSの機能評価係数の内容を検討し係数を高める対策を行う。

(45) [2]

後発品係数の取得により、DPC/PDPSの機能評価係数がアップし、全国ランキングが676位から282位へ上昇した。

ウ 理学療法士の増員により休日リハビリテーション等を充実し、また、薬剤師の増員により病棟薬剤業務を強化する等、増収を図る。

(47) [2]

理学療法士や薬剤師の増員により、リハビリや病棟薬剤業務を強化し、増収となった。

<第3表 小項目評価の集計結果>

ウェイトを考慮した14項目のうち14項目全てが小項目評価のⅢ以上に該当していることから、小項目評価の集計では、A評価(中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる)となる。

分野	評価対象 項目数	I(計画を 大幅に下 回っている)	II(計画を 十分に実 施できて ない)	III(計画を 順調に実 施してい る)	IV(計画を 上回って 実施して いる)	V(計画を 大幅に上 回って実 施してい る)
事務スタッフの専門性の向上	2			2		
予算執行の弾力化と費用節減	4			3	1	
収益の確保	5(3)			5(3)		
合計	11			10	1	
ウェイト考慮後の合計	14			13	1	

注:()は、ウェイト付けした項目数である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

ア 事務スタッフの専門研修は平成24年度より実績が減少している。より適切な研修計画を策定し、事務部門のより一層の専門性を高める努力をされたい。

(37)

イ 後発医薬品の採用については、目標値を達成し、全国の自治体病院の平均使用率を大きく上回っている。特に抗がん剤等、高額な医薬品の切り替えにより経費節減に寄与したことは評価できる。

(40)

ウ クリニック等各医療機関の高度医療機器の普及により、稼働率が減少していることはやむを得ないが、今後とも稼働率の向上に努めてほしい。(44)

エ 後発品係数の取得により、DPC/PDPSの機能評価係数がアップし、全国ランキングが676位から282位へ上昇したことは評価できる。今後も機能評価係数の向上対策に努めてほしい。(45)

オ 診療報酬明細のチェックを厳重に行い、査定減に努め、全国平均より査定率が低くなっていることは評価できる。今後も査定減に努めるとともに、入院、外来ともに算定漏れの防止に努めてもらいたい。(46)

カ 理学療法士や薬剤師の増員により、リハビリや病棟薬剤業務を強化し、増収を図ったことは評価できる。今後は人件費との兼ね合いも検討しながら収益確保に努めてもらいたい。(47)